

NO 192

H15年6月1日

発行一

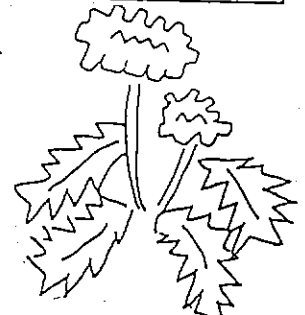
〒869-1217

熊本県菊池郡  
大津町森54-2

社会福祉法人  
三気の会

三気の里

☎096-293-8100



### 自閉症 1

施設長 松田 健

各施設にも当然自閉症の方  
はいます。4、5名いたとして  
も（本当はもっと多いと思いま  
すが、診断がはつきり出ている  
ケースを考えた場合の数で  
す。）自閉症を中心とした施設  
に在籍している方より多くの  
自閉症者が暮らして居ること  
になります。各施設とも一番施  
設側として困っているのは自  
閉症の方であるようです。器物  
破損（壁を蹴り破る、物を分解  
する、テレビなどを投げる等）、  
他傷行為（施設用語と思われま  
す。以下同様に施設用語のため  
簡単に説明します。）（他人を打  
つ、蹴る等）、自傷行為（自分  
の頭、顔等を自分で叩く、傷つ  
くまで手を噛む、カサブタを剥  
ぐ等）、異食・誤飲（土、髪  
の毛等を口にすると、薬品等を飲む、  
腕時計や針を飲みこむケー  
スもあり。）無断外出（居な

くなることですが言葉がない  
方が多く、告げてでること  
はないう訳で今では「行方不明」と  
言っています。それも少し変だ  
とは思いますが。）など目に余  
る行為を繰り返されるうちに彼  
らのペースでことが運ぶよう  
になります。作業・仕事もした  
くないものを無理にさせない  
ほうが良いといったことをま  
ことしやかに言い出す職員が  
でると收拾がつかなくなりま  
す。施設での王様となり、職員  
は子分として彼の手足として  
働くこととなります。あたかも  
大学教授のあとをゾロゾロと  
ついていく研修医のようです。  
寒いと言えば暖房を、暑いと言  
えば冷房を、腹が減ったと言え  
ば食事をあてがう便利屋、執事  
と言ったところでしょうか。片  
倉信夫先生が言われるように  
彼らは暑さ、寒さ、飢えも知ら  
ずに育ち、世の中は自分中心に  
動いていると錯覚していきま

す。他施設の職員を躊躇させて  
いることの中にパニックがあ  
ります。気に入らないことがあ  
ると彼らがパニックを起こす  
ことへの恐怖感があります。当  
たり障りのない対応が一般化  
する原因のようです。頭突き、  
噛み付き、引つ掻き、つねり、  
殴打、蹴り、目ん玉への突き、  
ツバ吐き、物投げ、ガラス割り、  
髪の毛の引つ張りなど一度や  
られると怖くてたまらなくな  
ります。パニックを起こさない  
ようにすることが最大目標に  
なります。つまり、彼らの言う  
ことことはすべて受容する、完  
全な従属関係が成立します。  
彼が笑っているとい今は機嫌  
が良いから近づいてみようとい  
か、不機嫌そうにしてると今は  
怒っているから近づかないほ  
うが良いと遠巻きにしている  
といったことになりす。不敵  
な笑みを浮かべる場合もある

わけて、一番調子の悪いときか  
もしれません。人間真剣になっ  
ている時は少しばかり怖い顔  
をするものです。といったこと  
がすつぽり抜け落ちるとまた  
ます深みにはまっていきま  
す。お仕上げ状態となり、退所を  
検討するようになります。事実、  
そうした経緯のもと三気の里  
に何人も入所されています。  
創設者である故田中稔先生  
は自閉症者の親です。だからこ  
そ、自閉症者の潜在能力の高さ  
がわかっておられ、それをいか  
に引き出すかと考えておられ  
ました。また、普通の生活をさ  
せたい、駄目なことは駄目と教  
えたい、我慢すること、自己を  
コントロールでできることによ  
って彼らの住む世界が広がる  
ことになり、彼らにとっても楽  
しい生活が送れるようになる  
と思われていました。居室に力  
ギをかけない、扉や柵を作らな  
い、入浴を毎日実施する、スタ  
ッフに対しても利用者のおし  
やれに気を使う、本人や施設内  
の臭いが分かるように、彼らの  
情緒、体調の変化が分かるよう  
に五感を研ぎ澄ます、一つの療

法に振り回される事なく、絶えず勉強することを厳しくおっしゃっていました。

当たり前の生活をする事、彼らの抱える障害の重さ、特質には注視しつつ、特別な宇宙人的な存在として捉えないこと。こうした考えがベースとなり、三気の里では日々の生活、療育を行っています。今まで述べたことは考え方の一端であり、そのことだけで彼らに接するのはよくありません。(技法については研修が必要です。)

彼らの精神世界を理解しようとする事も大事なことであり、スーパードクター片倉信夫、厚子先生から、きめの細かい洞察力を身につけるように指導されています。チェックポイントも多岐にわたります。彼らがいっどのような理由で躓いたのか、施設に入るときにきちんと説明を受けたのか、彼らがしたくもないことをとめられずにどれだけ苦しんでいるのか、などなどとても書ききれません。

彼らの衝動的な行為をとめられなかった時、「とめられず

に)ごめんなさい。」とスタッフは謝っています。「(失敗しないように)私がついているから大丈夫だよ。」と言って行動させている場面も多くあります。(つづく)



4 R 白川

出牛 留美子

利用者インタビュー

4 R 白川に参加した利用者インタビューしてみました。

・地域の方が優しくかつたし、ボランティアが出来て良かった。

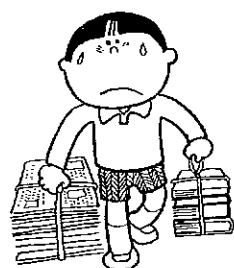
4 班神沢さん

・新聞を分ける作業を、知らない人と協力してやれた事が嬉しかった。帰りに飲んだジュースがいつもよりおいしかった。

さんサン工房坂本さん

・楽しかったが、新聞以外の物の(空き缶、雑誌等)分別もやってみたい。さんサン工房福嶋さん

このような感想がありました。皆さん頑張りました。お疲れ様でした。



## 後援会ありがとう

副島真一郎・瀨本 圭輔

國本 亮二・今村 太

早川 秀希・園田 正春

松本 真彰・麻生 憲剛

本田 久士・橋村 洋一

山室 誠弥

※敬称略

## 後援会募集のご案内

三気の里では、後援会を募集しています。御入会頂いた方には、毎月発行している機関紙「たんぽぽ」をお送り致します。

### 振り込み先

口座番号

01970・8・14902

社会福祉法人 三気の会后援会

保護者会代表 魚谷 秀文 宛

住所

熊本県菊池郡大津町森54・2

一口 3千円

団体は、1万円より

三気の里メールアドレス紹介

三気の里についてもご意見、要望その他何でも結構ですのでぜひメールをお送り下さい。皆様の声をお待ちしております。

URL <http://www7.ocn.ne.jp/~sanki>

~sanki

E-mail [sanki@siren.ocn.ne.jp](mailto:sanki@siren.ocn.ne.jp)

# 療育月報雑記

## 「チームワーク」

伊豆野 良榮

現在の取り組みとして、「集団をまとめて動かす（誘導する）」とスタッフの把握力をつける」とを行なっていますが、今回はその為に必要な「スタッフのチームワーク」について考えてみたいと思います。

今までも、漠然とした集団での行動は行なえていたように思いますが、しかし、一人一人の活動をよく観察してみると、ある利用者は、作業棟までの移動の際に、3分も掛からない距離を20分（こだわり行動・寄り道・座り込みが原因）もかかってしまったり、ある利用者は、職員よりも先に突っ走っていつてしまったり、先に作業棟に行っている、その場で常同行動（自傷やこだわり行動も含む）をしながら苛々していたりと、それぞれがバラバラでした。その結果、職員側が全体を把握することが困難になり、水飲みや無断外出等の不適応行動が発生しやすい状況になっていったような気がします。現在は、各班毎の集団活動を行なう

ことで、これらの行動を未然に防ぐことが出来るだけでなく、なかなか一緒に動き出せなかった利用者も集団の力を利用することにより、スムーズな動きが可能になってきたように感じています。

ところで、「集団をまとめる」とは、私たちスタッフにとってどういう事が求められてくるのでしょうか？20人以上の利用者を一人のスタッフで誘導することは難しく、また、数人のスタッフがいたとしても、各スタッフの意識が統一されていなければ、集団をまとめることは難しいでしょう。現在、各班が一つの集団となり、各場面ですべての活動をしています。

「移動」を例に挙げて考えてみると、1班20数名の利用者を約3名のスタッフでリードします。先頭は、リーダー的な役割を担い、目的の地までの誘導（方向・速度の決定）や集団がまとまっているかの確認・指示を主にこなします。最後尾のスタッフは、班全体の速さが適切であるか、後方から車がきつた場合などの状況を判断し、リーダーに通知するなどを行ないます。集団の中間にいるスタッフは、多くの利用者の状況を確認しながら

（靴のかかとを踏んでいないか？情緒面が不安定になっていないか？など）間隔をまとめたり、必要に応じては直接介助を行なったりします。このように、各スタッフの役割は違いますが、班の活動をまとめるという一つの目的は同じであり、そのためには、各々の役割を機能させることが大切ではないでしょうか。このことがチームワークであり、円滑に実行するために、各スタッフ間のコミュニケーション（声掛け・応答）が大きな鍵を握ると思います。

このように、チームワークは、作業棟までの移動時に限らず、80人の日常生活を円滑に送るためにも、パニック時の対応においても同じであると思います。スタッフのチームワークを高めることにより、不適応行動の減少も図れ、園での生活においても、もっと潤いのあるものになっていくと思えます。また、その延長線には、外出先や余暇活動においての充実、将来的には、社会参加へと繋がっていくのではないかと考えています。

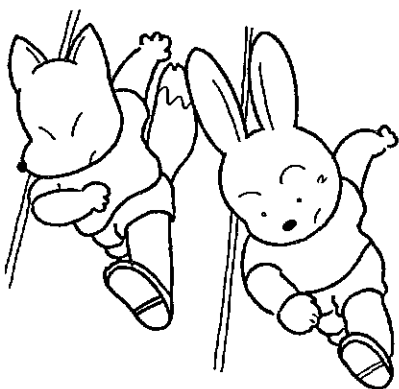


## スペシャル駅伝大会

菊池 優香

「三気の里史上初の「一位」」

5月17日（土）晴天の中、大津町オークス広場でスペシャル駅伝が開催されました。三気の里は、6チーム、全41名の利用者が参加。駅伝のほうは、2位と3位と例年通りの成績でした。しかし、その後の大玉ころがしでは、な・な・なんと1位を獲得することが出来ました。いつもは、伴走が必要な人も、大玉の時は伴走なしでも目的の地まで走ることができました。一位の喜びを知り、来年は駅伝のほうでも1位を獲得したいと、密かに闘志を燃やすスポーツクラブのメンバーでした。



# 班にゆーす



## 三気の里 1 班御一行様

5月13日、新年度からの新体制になって初めてのレクリエーションへ行きました。生憎の雨で予定していた吉無田高原ではなく花の温泉館へ行ったのですが…皆さん予定の変更にも何のその、バスの中では静かに景色を眺め、昼食は全員で一緒に「いただきます」をし、30分ほどかけてゆっくり食べ、移動では誰一人集団から外れることなく、温泉ではわがままを言わず園と同じ様に入浴し、休憩室では横になりゆっくりと全員入浴し終わるまで待っていました。

4月より集団というものを意識し、皆で一緒に動く練習を取り組んでいます。一人動きが乱れると全員の動きに支障がで、スタッフも利用者も必死になり一緒に行動しようと努力をしています。その成果が少し見られたレクリエーションだった為、その後のスタッフの班会議では皆大喜び…しかしまだ始まったばかりで問題は山積みです。皆が普通の生活を当たり前にしていけるよう利用者、スタッフ皆で頑張っていこうと思っています。

高橋

## 2 班 ・ 連 帯 感

2班はフルーツを保護するためのネットを半分に折って、5つずつ輪ゴムで束ねて、袋詰めする工程を、一人一人が役割を持ちながら作業をしています。作業中は報告の徹底を目標にしており、話せる方は「〇〇さん、出来ました」、話せない方は手を上げる等のサインを出すようにしています。また、今までは席が固定されていましたが、どのような配置にしたら作業が進むだろうか、ラインを組んで作業ができるだろうか、と試行錯誤しながら、度々席の配置替えをしています。作業風景を見てみると、1人で作業をするのではなく、スタッフも含めて皆で作業をしている連帯感が感じられるようになりました。新体制から2ヶ月が経ち、確実に一步一步進んでいるようです。

先日、作業棟の一斉大掃除を行いました！必要ない物はきれいさっぱり処分しました。窓はピカピカになり各班毎に色の違うカーテンが掛けられました。このきれいさを維持するように努力したいと思います。

石田

## 通所部 ・ 選 手 宣 誓

5月17日（土）に大津町で開催されたスペシャル駅伝大会での通所部の面々の奮闘ぶり??をお伝えします。まずは、開会式でおなじみの一場面“選手宣誓”。「宣誓!!」と広場に響き渡る声で宣誓されたのは、三気の里代表・我が通所部メンバー山内さんです。突然頼まれた事・大勢の前に立つ事・静まり返った場の雰囲気・初めての選手宣誓と考ただけでも山内さんの不安と緊張は相当のものだったと思います。しかし、練習と勇気で見事にその大役を務められ、保護者やスタッフの皆さんから「良かったよー」「バッチリだったね」との声。この経験は山内さんにとって大きな自信になった事と思います。さて、駅伝の方は通所部でチームを組み1人100mか200mの距離だったのですが、メンバーそれぞれが自分の力を十分に発揮しタスキを繋がっていました。またその他に大玉転がしやパン食い競争もあり、五月晴れの中皆さん日焼けして楽しむ事が出来たと思います。今後も、色んな事にチャレンジして一緒に楽しみましょう。皆さんお疲れさまでした。

松本慎

## さんサン工房・美緒さん

さんサン工房のメンバーが作業所へ通い出して一ヶ月が過ぎました。皆、元気良く、はりきって仕事をしています。そのメンバーの中の1人、美緒さんを今回紹介したいと思います。美緒さんのお母さんより心温まる話を聞かせていただきましたが、最近お母さんの足の具合が悪く、車庫の上げ下げや、買い物袋が重かったりしたとき、「美緒ちゃん手伝って」と美緒さんに言った時、「美緒がお給料貰っているからそれでお母さんを助けてあげる」と言ってくれたそうです。その話を聞いたときの感動！少し目頭が熱くなってしまいました。さんサン工房に来て、少しずつではあるけれど、成長してくれているのかな、と本当に嬉しく思いました。仕事も間違いなくきちんとやってくれる美緒さん、これからも期待していますよ。

大橋

## 3班・スペシャリスト

昨年度の園芸班のメンバーと農耕班のメンバーで農園芸作業を行うことになりました。作業内容は似ているものの、お互い足りないものを補いながら作業しています。

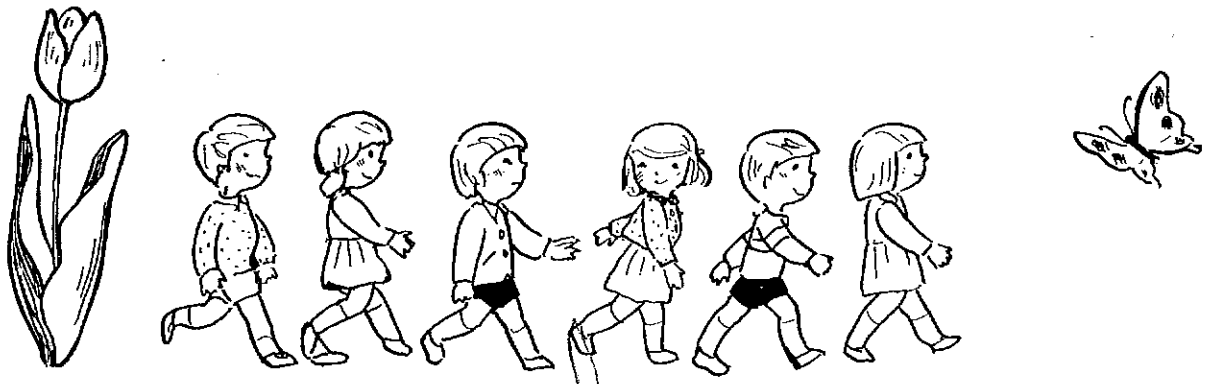
今回紹介するメンバーは、元園芸班のメンバーである佐々木さんです。佐々木さんは、吸収が早く農耕作業でもとても良い仕事ぶりを見せてくれます。4月に入り、野菜の種まきから始め、水撒き・草取りなどの一連の流れを、1度手本を見せるとすぐに理解し、こなしてくれます。今後は、芽かきや野菜についている虫を取るなどの細かい作業も援助し、自らできるようになってもらいたいと考えています。もちろん、園芸作業でもこれまでのように力を充分に発揮してもらいたいと考えています。近い将来、農園芸作業のスペシャリストになっているでしょう。今後の成長を期待しています。佐藤

## 4班・「みんなの輪の中に」

5年前、作業時間だというのに洗面所の鏡の前に立ち、いつまでもいつまでも手を洗っている人がいました。冬になると手は荒れてあかざれになりそれでも洗い続けるUさん、食事を摂るのもみんなと離れたところでぼつんと一人で食べ、側に寄ろうものなら「あんたには関係ない！」とつっぱねられてしまいます。Uさんが心を許せるのはただ一人、担当になる人だけだったのです。そんなUさんに作業に参加してもらおうと、スタッフがかわるがわる側に行き待っていると怒り出し暴力まで出たのが、少しずつ話を聞いてくれるようになり、放送で呼ぶだけで作業場所に来てくれるようになりました。嫌がっていたレクリエーションにも抵抗無く参加できるようになり、楽しめるまでになりました。そして今年度、集団の動きの中にUさんが居ます。食堂でも一人ではなく、みんなの輪の中にはいます。作業中も隣りの人を意識しながら頑張れるようになって、時々笑顔も見せてくれるようになりました。今はまだ脱線しそうな時もありますが、一人よりもみんなと一緒に居るほうが楽しいこと、幸せだということを感じてくれているようで嬉しく思います。

Uさん、そして4班のメンバー、それぞれの幸せの輪を重ね合わせて素敵な花を咲かせましょうね。

黒澤



## 6月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土	備考
1 福永さん(37)の誕生日	2	3	4	5	6	7 洋一さん(22)の誕生日	
8 輝き大会	9 上田さん(27)の誕生日	10 2班レクリエーション	11	12 健康診断	13	14 家族会	
15	16	17	18 3班レクリエーション	19 誕生会	20 享嗣さん(28)の誕生日	21	
22	23 松井さん(30)と竹下さん(27)の誕生日	24 田中 Dr 来診	25	26	27	28 帰宅バス	
29	30	31	福永さん、洋一さん、上田さん、享嗣さん、松井さん、竹下さん 誕生日おめでとう! ◎ 8日輝き大会 10日2班レクリエーション 14日家族会 18日3班レクリエーション 19日誕生会 24日田中 Dr 来診 28日帰宅バス				

### 実習・ボランティア通信

九州看護大学より女性1名、5月12日(月)から2週間、実習に来られています。実習中、利用者に対しての援助方法、コミュニケーションの取り方が難しいと苦戦している様子です。6月には湖東カレッジ専門学校より女性2名が実習に来られます。

是非三気の里に実習だけでなく、ボランティアも随時募集していますので気軽に足を運んでください。

(ボランティアありがとうございます)

両角

\*生け花

西村 栄子

\*ピアノ演奏

井川マリ子

敬称略

### 歯科検診



熊本歯科衛生士専門学校より、

5月9日(金)に歯科検診に来ていただきました。散歩や作業でコミュニケーションを図った上での歯科検診は、とても和やかにすすみ、昨年までは検診が受けられなかった利用者も検診を受けることが出来ました。皆さん、ありがとうございました。

大賀



### 食堂営業中

帰宅出来ない利用者の方に、もっと家庭的な雰囲気の中で食事をしてもらえるようにと新メニューを企画、第1回目は「しゃぶしゃぶ」を実施しました。混乱するだろうという私達の心配は良い形で裏切られ、皆さん落ち着いて楽しんで食されていました。その上、驚くことに「しゃぶしゃぶ」の箸使いというかタイミングが上手いのです。今後も色んなメニューに挑戦していく予定ですが、この分だと心配無用のようので安心しました。

矢野美智子

### 編集後記

今年度より、たんぼば編集員になりました。パソコンという慣れない作業に、これから頑張つて慣れていき、たんぼば編集員として恥ずかしくないパソコン捌きを身につけたいと思います。宜しくお願ひします。

山部

